

平成29年度

事業報告書

社会福祉法人 三恵会

事業報告目次

三恵会本部	P 1 ～ 4
特別養護老人ホーム きぼうの苑	P 5 ～ 7
障害者支援施設 あゆみ苑	P 8 ～ 1 0
ケアハウス 夢テラス	P 1 1 ～ 1 2
障害者支援施設 三恵ホーム	P 1 3 ～ 1 7
デイサービスセンター えぐも	P 1 8 ～ 1 9
児童福祉施設 十全保育園	P 2 0 ～ 2 2
特別養護老人ホーム ハートランド三恵	P 2 3 ～ 2 5
老人保健施設 リハビリステーション三恵荘	P 2 6
老人保健施設 希望の館	P 2 7 ～ 2 8
通所介護事業所 おいでんや	P 2 9 ～ 3 0
多機能型事業所 わくわくクラブ	P 3 1 ～ 3 2
放課後児童クラブ ともだちパーク	P 3 3 ～ 3 4
地域子育て支援事業（ひろば型）にこちゃんパーク	P 3 5 ～ 3 6
地域密着型特別養護老人ホーム うみかぜ	P 3 7 ～ 3 8
グループホーム かがやき	P 3 9 ～ 4 0
児童福祉施設 中萩保育園	P 4 1 ～ 4 4
養護老人ホーム 慈光園	P 4 5 ～ 4 7

三 惠 会 本 部

平成29年度 事業報告

1、経営方針

社会福祉法の改正により、「経営組織のガバナンスの強化」、「事業運営の透明性の向上」、「財務規律の強化」が求められております。完全施行となった平成29年度は、こうした経営の実現に向けて、経営の主体となる「理事」、「理事会」、「監事」、「評議員会」が有効に機能するように運営を実施してまいりました。

理事会では、6回開催し、事業計画、予算、役員の推薦、施設長の選任、各種規程の制定及び改定等について、審議・決議いたしました。

6月には定時評議員会を開催し、事業報告、決算の承認、役員の選任、会計監査人の選任、役員報酬等の制定について審議・決議され、新理事会にて理事長、業務執行理事を選任し、新体制でのスタートとなりました。

また、平成29年度より、「財務規律の強化」として「会計監査人制度」が導入され、公認会計士による監査が実施されました。管理組織のレベル、内部統制の整備・運用状況等の分析を行い、監査手続きを実施してまいりました。

内部統制、会計基準に基づいた処理等に課題が残る結果となりましたが、外部からの監査を受けることで、財務情報の信頼性が向上します。また、法人の信頼性も高まるだけでなく、適切な計算書類が作成されるプロセスを整備することにより、経営判断に必要な法人の財政状態が信頼性をもって適時に把握できるようになり、適時適切な意思決定ができると考えております。

今後も、平成29年4月1日施行の新定款に基づき、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい法人になるため、経営基盤の強化を図るとともに、統制の取れた事業運営体制の確保に努めてまいります。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1) 社会福祉制度改革への準備

ア、平成29年5月20日 理事会の開催

- ①新役員（理事、監事）の推薦
- ②役員及び評議員の報酬等支給基準の制定
- ③会計監査人の候補者の選任
- ④定款施行細則の制定
- ⑤定時評議員会の招集

イ、平成29年6月3日 定時評議員会の開催

- ①収支決算の承認
- ②新役員（理事、監事）の選任
- ③役員及び評議員の報酬等支給基準の承認
- ④会計監査人の選任

ウ、平成29年6月20日 新理事会の開催

- ①理事長の選任
- ②専務理事（業務執行理事）及び常務理事（業務執行理事）の選任

（2）組織・職員の改革

研修計画に基づき、若年層・リーダークラス等の階層別研修、各団体が実施する法人の研修に参加した。（3、研修計画を参照）

（3）財務コストの改革

予算編成について、2月に本部、施設、理事長との予算ヒアリングを実施した。

3、研修計画

（1）法人内研修

①新任職員研修

平成29年4月1日及び平成29年4月3日 実施
参加人数 21名（中途採用含む）

②階層別研修（日本経営）

若手層向け研修

第1回	平成29年	6月21日	参加者24名
第2回	平成29年	7月28日	参加者22名
第3回	平成29年	8月30日	参加者23名

リーダークラス リーダーシップ研修

第1回	平成29年	6月22日	参加者17名
第2回	平成29年	7月22日	参加者17名
第3回	平成29年	8月29日	参加者16名

リーダークラス ステップアップ研修

第1回	平成29年	9月21日	参加者26名
-----	-------	-------	--------

第2回 平成29年10月19日 参加者25名

第3回 平成29年11月16日 参加者26名

若手層 フォローアップ研修

第1回 平成29年 9月20日 参加者16名

(2) 法人外研修

○平成29年度第1回愛媛県社会福祉法人経営青年会

(全国社会福祉法人経営青年会・愛媛県社会福祉法人経営者協議会)

平成29年6月9日 3名 (内、2名が本部職員)

○全国経営協中国・四国ブロック協議会 第2回会長会議

(全国社会福祉法人経営青年会、中国・四国ブロック協議会)

平成29年6月16日 1名

○平成29年度総会・第1回社会福祉法人セミナー(経営協セミナー前期)

(愛媛県社会福祉法人経営者協議会)

平成29年7月10日 2名

○「労働契約法及びその特例」、「改正育児・介護休業法」等説明会

(愛媛労働局雇用・環境均等室)

平成29年7月11日 2名

○第28回中国・四国地区

社会福祉法人経営者セミナー 分科会

(愛媛県社会福祉協議会)

平成29年7月20日～7月21日 2名

○平成29年度第2回愛媛県社会福祉法人経営青年会

平成29年度第1回愛媛県社会福祉法人経営青年会研修会

労務管理・防犯対策研修

(全国社会福祉法人経営青年会・愛媛県社会福祉法人経営者協議会)

平成29年8月28日 4名 (内2名が本部職員)

○第2回社会福祉法人セミナー

(愛媛県社会福祉法人経営者協議会)

平成29年11月16日 1名

○障害者職業生活相談員資格認定講習

(独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構)

平成29年12月12日～12月13日 1名

○社会福祉法人施設長等研修会(EPAに基づく介護福祉士候補者の受け入れについて)

(愛媛県社会福祉法人経営者協議会)

平成30年1月23日 1名

○平成29年度第3回愛媛県社会福祉法人経営青年会

平成29年度中国・四国ブロック定例勉強会

(全国社会福祉法人経営青年会・愛媛県社会福祉法人経営者協議会)

平成30年2月23日 2名

○平成29年度社会福祉施設監事監査研修会

(愛媛県社会福祉法人経営者協議会)

平成30年2月16日 1名(監事1名)

特別養護老人ホーム
きぼうの苑

平成29年度 事業報告

1. 経営方針

平成29年度は、職員間や部署間での情報の共有と職員一人一人の知識や技術力、資質の向上を図ることで、介護事故や苦情を減らし、ご利用者が安全・安心で満足して楽しく生活していただけるよう目標を掲げ取り組んだが、高齢化と要介護度の進行や認知症等により、転倒などの事故発生件数は前年とほとんど変わらない結果であった。ご利用者、ご家族からの要望や苦情等については真摯に対応し十分な説明を行うよう努めた結果、大幅に減少した。今後も事故防止に最大限の取り組みを行い、入所者の安全な生活をサポートできるよう努力していく所存である。

また、各部署で目標数値の達成に向けて努力をしたが、退所者が前年比50%増加したことや感染症による施設の閉鎖等により、収支目標の達成にはやや届かない結果となった。引き続き健全な施設運営のため稼働率等の数値目標達成に向けて職員一丸となって取り組んでまいりたい。

地域の在宅支援では、新居浜市地域包括支援センターや他施設、居宅介護・訪問介護事業所等他のサービス事業者や地元自治会との情報交換や緊密な連携が不可欠である。ご利用者の在宅での健康な生活を維持、支援するための介護計画の立案、担当者会、地域の公民館におけるPPK体操指導などを積極的に行なった。

前述の感染症については、ご利用者・職員ともにノロウイルスやインフルエンザの感染者を多数出し、終息に時間を要したが、職員一丸となって対応した。来年度以降は早い段階からの感染症対策を徹底したい。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①職員勉強会、職員研修を実施し、職員の資質の向上に努めた
- ②苦情、要望等への速やかな対応と対策に努めた
- ③災害（地震・火災・自然等）に備えた取り組みと訓練を実施した
- ④誠実・真摯に業務に取り組み、利用者・家族との信頼関係の構築に努めた

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①介護研修を継続的に実施し介護職の技術力の向上に努めた
- ②介護事故の検証と事故防止対策の徹底を図った
- ③研修による認知症の理解と介護対応の統一化を図った
- ④介護福祉士の資格取得のための実務者研修受講の支援を行った

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①三恵会理念、行動指針に基づく施設運営に向けた指導を行った。
- ②ストレスチェックを実施し、職員へのメンタルヘルスケアを行った
- ③部署ごとの稼働率目標実現に向けた取り組みや経費の節約に努めた
- ④入所待機者の効率的な入所に向けた取り組みを行った

3. 研修計画

(1) 施設内

①三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

②自主研修

4月 接遇について	10月 個人情報・プライバシーについて
5月 メンタルヘルスについて	11月 感染症予防について①
6月 食中毒予防について	12月 リスクマネジメントについて
7月 コミュニケーション技法について	1月 感染症予防について②
8月 褥瘡防止について	2月 虐待防止について
9月 認知症ケアについて	3月 身体拘束廃止について

(2) 施設外

①老人福祉施設協議会関係

全国 四国 愛媛県 東予地区 新居浜市各協議会

②栄養士関係 愛媛県 東予地区 新居浜市 各栄養士研修 特定給食施設研修

新居浜市病院栄養士 栄養指導者研修 栄養ケアマネジメント研修

③介護職員関係 認知症 指導者養成研修 介護技術向上研修

④介護支援専門員 愛媛県 新居浜市 県社協主催研修

4. 行事計画(年間)

4月 合同花見 家族会総会	10月 太鼓祭り 社会見学 防火訓練
5月 新緑ドライブ 機関誌発行	11月 文化祭 紅葉見物 焼き芋
6月 運動会 神事 菖蒲見学	12月 忘年会 お餅つき クリスマス 大掃除
7月 そうめん流し ワークキャンプ	1月 お正月 初詣 新年会 機関誌発行
8月 慰霊祭 盆踊り ビアガーデン	2月 節分 バレンタイン
9月 敬老会 観月会 機関誌発行	3月 ひな祭り ホワイトデー 防火訓練
※ 毎月第4金曜日 居酒屋	※各クラブ活動 定期的に実施

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

交流事業 やすらぎの郷文化祭 西の土居花見 各自治会活動・公民館活動
校区運動会・文化祭への参加と協力(久保田・滝宮・金栄・金子・西の土居)
施設見学の受入れ、ふれあいサロンの実施(金栄、西の土居、政枝、
久保田、若水) 校区ソフトボール大会

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動

地域清掃 生き生きフェスティバル 地元自治会活動への協力

②ボランティアの受入

新居浜東高等学校 新居浜南高等学校 今治明德短期大学 天理教
金栄福祉ボランティア団体 金栄婦人会 若く明るく歌を歌う会
語り部演奏 琴演奏 ハープ演奏 少林寺拳法 マンドリン演奏 大正琴演奏
絵手紙教室 習字 フラダンス クラシック演奏 昔話披露 三味線演奏
フォークダンス 傾聴ボランティア 口腔ケア衛生管理

(3)実習生の受入

①学校等

十全看護専門学校 松山東雲短期大学 四国中央医療福祉総合学院
愛媛十全医療学院

②体験学習

新居浜市役所 職場体験(新居浜市立北中) ウェルカム講座実施
中高生ワークキャンプ

6. 入所利用者状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

(1)年齢

	59 以下	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100 以上	合計	平均
男	0	1	0	3	3	7	3	5	2	1	25	80.8
女	0	0	1	6	5	10	34	23	8	3	90	89.3
合計	0	1	1	9	8	17	37	28	10	4	115	87.5

(2)要介護度

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	要介護度平均
男	0	1	8	10	6	3.84
女	3	2	11	36	38	4.16
合計	3	3	19	46	44	4.09

障害者支援施設
あゆみ苑

平成29年度 事業報告

1. 経営方針

平成29年度も職員間の連携を強化し、職員一人一人の資質の向上に努めるとともに、接遇マナーの改善のため、職員が毎朝「朝の挨拶運動」に取り組み、正しい言葉遣いと身だしなみ、挨拶の励行に取り組んだ。

また、介護事故の防止に努めるとともにご利用者、ご家族に対する笑顔での接遇対応とコミュニケーションに努め、ご利用者の情報を共有し、ご家族からの要望や苦情等について真摯な対応と説明を行った。

ご利用者の高齢化による入院や介護保険への移行に備え、新規利用者の獲得のため相談支援事業所や各サービス事業所と情報交換を行い、連携を強化するなどの様々な取り組みを行った。また、特別支援学校との関係強化をはかり積極的な受入を行った。

感染症対策では、一部ご利用者にインフルエンザの感染者が出たものの、職員一丸となって対応した。来年度以降も油断することなく感染症対策を徹底したい。

その他、地域との連携による防災対策、職員の心の健康と安全を守るためのメンタルヘルスケアなどの取り組みを行った。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ① 職員勉強会、職員研修を実施し、職員の資質の向上に努めた
- ② 接遇マナーの改善に取り組んだ
- ③ 職員と利用者、家族との信頼関係の構築に努めた
- ④ 災害（地震・火災・自然等）に備えた取り組みと訓練を実施した

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ① 障害特性の把握や理解をより深め、統一した支援体制の徹底を図った
- ② 高齢化が進むご利用者の情報共有に努め事故防止対策を行った
- ③ 職員間の連携と情報共有の徹底を図った
- ④ 介護福祉士の資格取得のための実務者研修受講の支援を行った

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ① 三恵会理念、行動指針に基づく施設運営に向けた指導を行った
- ② ストレスチェックを実施し、職員へのメンタルヘルスケアを行った
- ③ 部署ごとの稼働率目標実現に向けた取り組みや経費の節約に努めた
- ④ 入所待機者の効率的入所に向けた取り組みを行った

3. 研修計画

(1) 施設内（きぼうの苑と合同）

① 三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

② 自主研修

4月	接遇について	10月	個人情報・プライバシーについて
5月	メンタルヘルスについて	11月	感染症予防について①
6月	食中毒予防について	12月	リスクマネジメントについて
7月	コミュニケーション技法について	1月	感染症予防について②
8月	褥瘡防止について	2月	虐待防止について
9月	認知症ケアについて	3月	身体拘束廃止について

(2) 施設外

全国身体障害者施設協議会 経営セミナー

中・四国身体障害者施設協議会 施設長会（研修会）・施設職員研修大会

愛媛県身体障害者施設協議会 施設長会・施設職員研修会

愛媛県障害者相談支援従事者研修

愛媛県障害程度区分認定調査員研修

通所施設直接処遇職員研修会、サービス管理責任者研修

4. 行事計画（年間）

4月 花見
5月 日帰り旅行 街中ツアー 愛媛県障害者スポーツ大会
6月 紫陽花見学 合同運動会
7月 七夕 花火 ビアガーデン（施設内外） 素麺流し 映画
8月 慰霊祭 盆踊り カラオケ大会 映画
9月 日帰り旅行 観月会
10月 地方祭 防火訓練
11月 文化祭 紅葉狩り 街中ツアー 焼き芋
12月 クリスマス会 忘年会 餅つき 大掃除
1月 初詣 書初め 新年会 料理
2月 節分 バレンタイン
3月 ひな祭り 運動会 防火訓練

* 定期行事：買い物、外出、買い物訓練、誕生者外食、居酒屋（第4金曜）、陶芸、お茶会
介護教室、フラワーアレンジメント、料理教室

* クラブ活動：習字クラブ（第2・4火曜）、生花クラブ（第3木曜）

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

やすらぎの郷文化祭、施設見学の受け入れ、他施設行事への参加、外出行事による社会参加、来苑ボランティアとの交流、校区芸能発表会、校区運動会、校区文化祭、校区ソフトボール大会、校区ケアネットワーク

(2) ボランティア活動

①職員ボランティア活動

地域清掃、地元自治会活動への協力、生き生きフェスティバル

②ボランティアの受け入れ状況

新居浜東高等学校、新居浜南高等学校、今治明德短期大学、天理教、金栄福祉ボランティア団体、金栄婦人会、語り部演奏、琴演奏、ハープ演奏、若く明るく歌を歌う会、少林寺拳法、マンドリン演奏、大正琴演奏、絵手紙教室、習字、フラダンス、クラシック音楽演奏、口腔ケア衛生管理、昔話披露、三味線演奏、フォークダンス披露

(3) 実習生の受け入れ

<学校関係>

十全看護専門学校、松山東雲短期大学、四国中央医療福祉学院、愛媛十全医療学院

6. 利用者状況 (平成30年3月31日現在)

(1) 年齢 ()…入所支援

	19以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～65	66以上	合計	平均
男	0 (0)	4 (0)	3 (0)	5 (3)	8 (1)	9 (2)	4 (4)	33 (10)	51.4 (60.5)
女	2 (0)	5 (0)	1 (1)	5 (3)	8 (1)	6 (3)	2 (2)	29 (10)	45.8 (55.8)
合計	2	9	4	10	16	15	6	62	48.8

(2) 障害者程度区分 ()…入所支援

	1	2	3	4	5	6	合計	平均
男	0 (0)	1 (0)	4 (0)	7 (0)	5 (3)	16 (7)	33 (10)	5.5 (5.7)
女	0 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	7 (5)	16 (5)	29 (10)	5.2 (5.0)
合計	0	2	6	10	12	32	62	5.4

ケ ア ハ ウ ス
夢 テ ラ ス

平成29年度 事業報告

1. 経営方針

平成29年度は、職員間や事業所・関係機関との連携を図り、安心安全な生活支援を行うとともに、提供するサービスや年間行事を見直し、ご利用者が日々の生活に潤いを持ち、楽しく充実した生活をお送りいただくことを目標に掲げたが、入居者の方々の高齢化や身体面、精神面の状態低下により、利用継続が困難になり、退居するご利用者が何人か見られた。

入所のご利用者個々の状態に合わせた生活の継続ができるよう支援に努め、必要に応じてご家族や関係事業所との連携を図りながら、在宅サービス利用の援助等を行い、長期利用に繋がるよう努めた。

また、新規に入居を希望する人も住居や生活面、健康面などに不安や問題を抱えているケースが多くなってきている。

ご利用者が高齢化、虚弱化しても、少しでも長期の利用ができるよう、施設的环境整備と、職員の知識や技術の向上に努めているところであり、今後も、施設の特徴をつくり、幅広く入居希望者を確保するとともに、入居者の皆様が日々安心して楽しく生活できるよう支援し、安定した施設運営を目指したい。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) ご利用者の高齢化・多様化に合わせた支援の充実

- ① ご利用者個々の心身の状態を把握し、体力低下の予防と健康の維持・増進に努めた。
- ② 関係機関・職種と情報共有に努め、在宅サービスの利用などの調整・援助を行った。
- ③ 緊急時も万全の対応を行い、入居者の心身のケアに努めた。

(2) 利用者が安心安全で快適に過ごせる生活環境の整備と施設づくり

- ① 茶話会等を通じて、ご利用者の意見や希望を収集し、外出行事や施設内行事を魅力あるものにして、楽しい生活となるよう努めた。
- ② 利用者が円満な人間関係を構築できるよう、支援に努めた。
- ③ 既存設備の点検や修繕を随時実施し、入居者がより安心、安全に生活できるよう生活環境の改善等を行った。

(3) 入居者の確保

- ① ご利用者個々の状態に合わせた支援を行い、長期利用に繋がるよう努めた。
- ② 施設見学者、実習生、ボランティア等に対し施設の概要をわかりやすく説明・PRし、入居者確保に繋がるよう努めた。
- ③ 他事業所のケアマネ等との情報交換を通じて、入所希望者の募集・確保に努めた。

3. 研修計画

- (1) 施設内…三恵会教育部門研修、職員勉強会(毎月)の実施、接遇研修、職員全体会、合同主任会の実施、リスクマネジメント、認知症ケア、メンタルヘルスケア他
- (2) 施設外…全軽協四国ブロック研修会他への参加

4. 行事（年間）

①ケアハウス行事

茶話会 誕生会 買物クラブ シャクヤク見物 そうめん流し 花火 敬老会
上部乳児保育園交流会 忘年クリスマス会 新年会 節分・豆まき イチゴ狩り

②やすらぎの郷行事参加

なかよしクラブ 花見 太鼓台見物 運動会 神事 ビアガーデン 慰霊祭・盆踊り 観月会 防災・防火訓練 文化祭

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

・地域公民館行事、上部乳児保育園 各種ボランティア団体交流 地域太鼓台

(2) ボランティア、実習生

・実習生へのケアハウスの事業、業務の説明、施設見学等、各種ボランティア団体との交流

6. 入所利用者状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

(1) 月別利用者数 (各月 1 日現在)

人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	8	8	8	8	8	8	9	8	8	8	8	7	96
女	19	21	21	20	20	20	20	20	20	20	20	20	241
合計	27	29	29	28	28	28	29	28	28	28	28	27	337

(2) 月別居室稼働率 (各月 1 日現在)

室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2F(室)	14	15	15	14	15	15	15	15	15	15	15	14	177
3F(室)	13	14	14	14	13	13	14	13	13	13	13	13	160
合計	27	29	29	28	28	28	29	28	28	28	28	27	337
稼働率 (%)	90.2	96.7	95.6	93.2	93.2	95.3	94.1	93.3	93.3	93.3	91.8	87.6	平均 93.2

(3) 入居者年齢

人 歳

	69歳以下	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合計	平均
男	0	0	1	0	3	2	6	87.3
女	0	1	0	9	6	4	20	85.6
合計	0	0	2	10	8	7	26	86.0

(4) 要介護認定状況

人

	非該当	要支援Ⅰ	要支援Ⅱ	要介護Ⅰ	要介護Ⅱ	要介護Ⅲ～Ⅴ	合計
男	2	1	1	0	2	0	6
女	3	5	3	6	2	1	20
合計	5	6	4	6	4	1	26

障害者支援施設
三 恵 ホ ー ム

平成29年度 事業報告

1 経営方針に関すること

経営の現況について

当施設は、昭和55年の開設以来、身体障害者を対象とした福祉サービス事業を実施してきて37年を終えた。

定員は、「生活介護」及び「施設入所支援」が合計70名、「短期入所」及び「地域生活支援（日中一時支援）」が合わせて4名である。

稼働率は、「生活介護」及び「施設入所支援」については、100パーセントに近い数値で推移した。

「短期入所」及び「地域生活支援」の稼働率は、27年度53.8%、28年度63%、29年度70.9%と着実に向上してきた。

しかし、平成26年10月に開設した「指定特定相談支援事業所」については職員の退職に伴う利用契約数の減少により、当初の目標値を大きく下回り、現在の契約数は約114件となっている。

補充入所に係る空白日数の短縮が収入増額、短期入所の稼働率の向上、指定特定相談支援の実績が収入増加の要因になった。管理費の節約にも努めた結果、施設全体として前年度に引き続き、収支の均衡を維持し、概ね健全な経営を維持することができた。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 設備・備品の整備

利用者の高齢化や障害の重度化が進む中で、職員の介護に係る負担軽減を図るためにトイレの昇降機能付き便座の設置やトイレから職員に通話ができる設備の整備を行った。

(2) 職員の確保について

職員の確保は、依然として生活支援員を中心に、看護師や調理員等の職種についての応募は極めて厳しい状況が続いており、新規学卒者だけでなく、中途採用者についてもハローワークや職員の知人など様々なルートを通じて確保に努めているところである。

障害者福祉施設の現場の特殊性等の理由から、折角採用しても定着できない事例等もあり、定着のためのきめ細かいサポート、計画的な育成・指導に努めている。

現状では、サービスの維持に必要な最低限の人員が確保されている状況にある。

(3) 利用者の思いを尊重した支援

利用者に関わる時間を多く持ち、利用者個々の考えや思いに耳を傾けるよう施設全体で努めた。

サービス等利用計画に基づいた個別支援計画の作成を行い、利用者が自分らしく過ごすことができるよう支援していくことができた。

(4) 利用者が安心して過ごすことのできる施設づくり

接遇マナーを強化し、利用者やご家族、地域の人との良好な関係に努めた。

また、研修等で得た正しい知識と技術を日々の支援に活かし、上質なサービスの提供を

目指した。

利用者の高齢化に伴い、障害の重度化や重病化が目立つようになってきた。入院する利用者も増えたが、入院中には面会に努めた。

各部署が連携を図りながらユニットケアでより細やかな支援を行い、利用者の安全と安心かつ心豊かな生活を送っていただけるよう支援に努めた。

① 個別ケアの充実

より細かいアセスメントの実施により、利用者の希望・思いを実現するために個別支援計画に沿った支援に努め、利用者の満足に繋げた。また、毎月ニーズの達成状況を確認することで、達成具合を把握し、実現に努めた。

定期的なリーダー会議、ユニット会議を開き、早期の問題解決に努めた。

短期入所、日中一時支援では、利用者の増加に伴い、十分な面接を事前に行い、できる限り自宅に近い生活で、安心して利用を続けていただけるよう、一人ひとりに合った対応に努めた。

新規入所利用者においては、安心して施設生活を送っていただけるよう、他部署と連携をとりながら、日々の支援に努めた。

② 日中活動への積極的支援

利用者に合わせて様々な活動の場を提供し、より楽しくより充実した生活が送れるよう有意義な日中活動を目指した。ボランティアの訪問や利用者のご家族による活動、好評を得ているカラオケや憩い喫茶等、利用者が参加を選び、楽しんでいただいた。

また、参加されない利用者への個別の支援にも努めた。

個別外出では年3回、利用者のご希望に応じた情報提供を行い、自由に楽しみ満足していただけるよう個別支援に努めた。

③ リスクマネジメントの徹底

常に危機意識を持ち、予測される事故を未然に防ぐ為のリスクマネジメントに努めた。

事故が起きてしまった場合には、再発防止に努めた。また、安全のために、一人介助から二人介助にするなど、介護方法の見直しも行った。昇降式便座の設置を1ヶ所から2ヶ所に増やし、安全にトイレを使用できるよう環境を整えた。

④ リハビリテーションについて

利用者の午後の送迎は可能な限り対応した、1～3月に感染対策のためのリハビリ制限があり、出席率は低下した。

リハビリ実施計画書の見直しを含めた作成は従来どおり継続し、身元引受人の同意印を促すために、極端に遅い方には葉書や連絡の電話を昨年以上に強化した。

車椅子・装具・自助具の点検・修理、ナースコールの改造、パソコンの利用援助なども必要に応じて対応した。

⑤ 看護について

本年度は利用者様の高齢化に伴い体調不良を訴える利用者様が多く緊急受診が増えた協力病院の医師と連携を図り、他部署との協力を得て受診を円滑に行えるよう対応した。

また、以下の内容に取り組んだ。

利用者様の健康管理については、週1回の嘱託医師(十全病院内科・整形)月1回の嘱託医師(精神科)による往診で日常の健康状態を把握し疾病の早期発見に努めた。

定期健康診断を3月と9月に実施し、その結果に基づき医師の指示により2次検査を実施した。結果については、各利用者に結果説明を行なった。必要時にはご家族にも説明を行った。

インフルエンザワクチン接種は11月に実施し、愛媛歯科口腔保険センター歯科医師による歯科健診も実施した。

事故やヒヤリハットの防止に努めるとともに、外部の研修に参加し看護師としての質の向上に努めた。

(5) 介護サービスの質の向上

施設内研修、外部研修への積極的な参加で資質の向上を図り、利用者にも上質なサービスの提供を目指し、人材育成に努めた。また、様々な資格取得にも挑戦するための案内を行った。

今年度も緊急を要する医療行為(喀痰吸引吸引等の行為)の養成研修に生活支援員が1名受講し、資格取得することができた。

(6) 地域に愛され、信頼される開かれた施設

① 短期入所及び日中一時支援事業の積極的な受入れ

- ・短期入所利用実績 896日間の受入れ
- ・日中一時支援利用実績 138日間の受入れ
- ・短期入所・日中一時支援の稼働率の向上、70.9%(28年度63.0%)

② 地域の方との良好な関係を築けるよう、接遇マナーの更なる強化

- ・地域交流行事やボランティア等、来所の際の接遇マナーに配慮し、地域の方との良好な関係作りに努めた。

③ 利用者のご家族や地域の方々への日中活動の協力の呼びかけ

- ・施設内外で地域の皆様と交流ができるよう、地域交流委員会を中心に地域交流行事の企画を行い、地域との繋がり強化に取り組んだ。

④ 地域行事へ積極的な参加

- ・社会福祉協議会等が実施する地域行事へも積極的に参加し、地域の方との交流を積極的に行った。
- ・地区の春の井出清掃と秋の道づくりに参加をした。

⑤ ボランティアの積極的な受入れ

- ・盆踊りの時には、実習受入校や各種団体にボランティアの依頼を行い、協力を仰いだ。
- ・ボランティア団体や個人の増加と活動の継続を目指して、ポスターを作成し、地域のへの呼びかけを行った。

3 研修計画

(1) 施設内

① 年間研修計画に基づき実施

- ・年間計画に基づき、10回実施した。延べ240名が参加した。

② 施設内研究の充実と施設内発表会の開催

- ・三恵会本部主催のリーダークラス、若年層に分かれての職員研修では、スキルアップに努めた。施設内研修でも、人材育成委員会による毎月の研修を実施。また外部研修に参加することで他施設との情報交換を行い、上質なサービスの提供に繋げる努力をした。
- ・介護技術の実技研修を新人職員に行い、介護技術の向上に努めた。
- ・今年度も、緊急を要する医療行為（喀痰吸引等の行為）の養成研修に生活支援員が1名受講し、資格を取得することができた。

(2) 施設外

① 全国身障協職員研究大会

② 中四国身障協施設長研修会、事務管理研修会、支援職員研修大会、職員研修大会

③ 県内身障協職員研修会、サービス管理責任者研修会、職員研修大会

④ 職種別専門研修会

⑤ 三恵会本部主催の職員研修

上記研修会に出席した。

4 行事

4月 お花見（ふじ祭りは中止、インフルエンザ流行）

5月 愛媛県障害者スポーツ大会

6月 ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場

6月・10月 みんなでランチ

7月・3月 防災訓練（地震、土砂災害想定、火災夜間想定等）

8月 地域交流三恵盆踊り大会

12月 餅つき大会、クリスマス会、忘年会、笑顔つなぐ文化フェスティバル

1月 新春ゲーム大会、鏡開き

2月 節分豆まき

4月～12月 個別外出

5 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- | | |
|------------------------|------|
| ① 地域交流三恵盆踊り大会(愛媛県との共催) | 550名 |
| ② 東温市身障協助会との交流 | 41名 |
| ③ 川内保育園との交流 | 42名 |

(2) ボランティア活動

① 職員ボランティア活動

- ・地区の春の井出清掃と秋の道づくり
- ・国道11号歩道の生垣の清掃 隔月1回、年間5回、実施した。

② ボランティアの受入れ

- ・創価ボランティア（27名）・川内さくらコーラス（19名）
- ・東温市婦人会（8名）・伊予銀行（7名）・傾聴ボランティア（35名）
- ・HATCHIの会（36名）・四季の会（12名）
- ・松山東雲短期大学（1名）・松山城南高校 福祉科（5名）
- ・愛媛十全医療学院（4名）・愛媛調理製菓専門学校（10名）
- ・今治明德短期大学（1名）・K9クラブ（8名）
- ・お話し笑みさん

(3) 実習生の受入れ

- ・河原医療福祉専門学校 ・松山城南高校(福祉科)

デイサービスセンター
えぐも

平成29年度 事業報告

1 経営方針

通所介護事業所えぐもは、通常規模型から1日一人当たりの利用単価が100単位増となる地域密着型（定員18名）へと移行し、また、東温市独自による元気な老人を対象とした通所サービスA型（定員17名）への認可も受け、収入の確保に取り組みました。

ただ、軽度の方を対象とした通所サービスA型に関しては、住民への認知度が低く、利用者の受け入れが月間当たり一人と伸び悩んだため、下半期の年明けから地域住民への広報活動に取り組み、その一つとして、公民館単位で俳句の投句箱を設置し、毎月の添削による住民との接点を持ちました。

今後は、吟行や俳句大会を開催し、やがてはそこから利用開始へと繋げて参る所存です。

居宅介護支援事業所えぐもは、当初から新規利用者の確保が伸び悩み、利用者や家族からの信頼関係を築くだけでなく、各関係機関との接点を多く持ち、新規利用者の情報や紹介による利用者増へと努めて参る所存です。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) サービス内容の見直し

ア 利用者の身体状況等に応じた生活機能訓練の充実

看護師や介護職員が、利用者にレクリエーション活動を通して楽しんで頂きながら生活機能訓練を行うことに努めました。

イ 認知症対策としての音楽療法の実施

音楽療法を月2回実施し、楽しんで頂きながら活力の維持向上を図ることに努めました。

ウ 利用者のニーズの高いカラオケの充実

三恵ホームのカラオケセットを譲り受け、曲目を増やし、更に、広範な曲に挑戦して頂くよう努めました。

エ 俳句、茶道の実施

俳句の時間を月2回実施し、文芸活動を通して脳の活性化を図り、さらに、8月には俳句集「恵雲」を創刊し、さらなる参加意欲の向上に努めました。また、茶道も継続し、自らがお茶を点てて頂いて、生活意欲を引き出すことにも努めました。

(2) その他

ア 広報の実施

PR用パンフレットを活用して、企業訪問や地域イベントで配布し、効果的な広報を展開することに努めました。

イ 機材の整備

利用者のニーズに即し、上肢機能の向上や健康維持を図るため、新たに滑車リハビリ器を整備致しました。

3 研修計画

(1) 施設内

- ・併設施設三恵ホーム内研修 年 10 回

(2) 施設外

- ・中予地区老施協研修会 年 3 回
- ・県老施協研修会 年 4 回
- ・介護支援専門員実務研修

4 行事計画

- ・社会見学 年 8 回
- ・敬老演芸会 9 月
- ・誕生会 年 12 回
- ・クリスマス会 12 月
- ・防災訓練 年 2 回
- ・地域交流 藤祭り 4 月

5 ボランティア受け入れ

- ・四季の会（唄と尺八演奏） 年 2 回
- ・伊予民謡研究会（踊り）
- ・川内中学校 カラオケ慰問
- ・東温チャイム（ハンドベル演奏） 年 2 回

兒童福祉施設
十全保育園

平成29年度事業報告

1. 経営方針

平成30年度から施行される「保育所保育指針」においては、3歳未満児の保育が重視されていること、3歳以上児の保育に関しては教育的側面が積極的に位置づけられていることが、主な改正部分でした。29年度はそれらを受けて様々な議論がなされ、保育現場においても具体的にどのように変わり、どのように保育に活かしていくのか検討されてきました。保育所職員の処遇改善においては、新たに「処遇改善Ⅱ」が創設され、キャリアアップ研修が30年度から義務付けられるということで、不透明ではありつつも支給する形をとって参りました。指針の施行、処遇改善等、ますます保育所職員の専門性が問われ、保育園に対するニーズは、多様化、専門化し、制度的にも明確に示されるようになりました。

十全保育園では、今まで行ってきた行事を見直しながら、児童の成長を保護者と共に喜び合い、次への成長のステップとなるよう保育を進めてきました。保護者の要望に対しても、きちんと説明を行い、保育のねらいを保護者に伝えていきました。

職員間では、乳児クラス・幼児クラスの枠を越え協力し合い、計画的に早めに行事に取り組む姿が見られました。各職員が、それぞれの立場で力を発揮し、自分のやりがいを感じることができる年度になったと思います。今後も、新しい保育所保育指針をしっかりと踏まえ、保育内容の充実に力を注いでいきたいと思います。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1)「誠実な福祉」の実践

① 子どもの健康・安全な生活を保障する。

- ・月1回の職員会で、子どもの状況、けがの報告を話し合い、周知徹底を図りました。

② 子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・職員会での討議、発達支援課の巡回相談において、職員全体で検討し、個人の問題を職員全員の問題とすることを意識するようにはしていきました。行事の取り組みがきっかけとなり、障害児の発達が促され、今までの保育の成果が、保育現場で確認できたことが良かったと思います。
- ・年度末には、今までできていなかった「保育評価」を実施し、自分自身の保育の振り返りを行いました。

(2)「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上について

- ・研修の機会があったにも関わらず、保育現場の調整が上手く行えず計画的に進められませんでした。今後は、研修計画を確認し積極的に進めていきたいと思います。

②職員の業務内容について

- ・それぞれの職種において、行事等で責任と当事者意識を重視し、業務を進めました。特に栄養士は、食育活動での保育士と連携が図れ、計画的に進めることができていました。

(3)「堅実な経営」の実践

- ・保育士の適切な配置と数年後を見据えて入所児童の確保を心がけることで、安定した経営を意識していくことができました。
- ・LED照明取り換え工事により環境を整え、消費電力の低下に努めました。
- ・本部との協議、また支援もあり、保育園東の駐車場を購入することができ、「保護者用駐車場」を広げ、保護者にとってより安全な送迎ができるようになりました。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・職員会（月1回）
- ・先任者会・主任会（随時）

(2) 施設外

- ・保育協議会部会（園長・主任・幼児・乳児・障がい児・給食）
- ・日本保育協会主催研修
- ・人権教育研修
- ・給食担当者会議
- ・三恵会主催研修

等

4. 行事实績(年間)

- 4月 入園式・健康診断・家庭訪問
- 5月 親子遠足・野菜苗植え・種まき・歯科検診
- 6月 保育参観・クラス懇談会・夕涼み会
- 7月 七夕会・プール開き
- 8月 プール大会・ライン引き・デイサービス交流
- 9月 敬老の日にちなんでの葉書投函
- 10月 運動会・お祭り集会
交通安全教室・歯科検診
- 11月 のま馬ハイランド遠足（年長児）・七五三・職場訪問（警察署、西原郵便局）
火遊び防止教室・シルエット劇場観劇
ブーク人形劇観劇・健康診断
- 12月 保育参観・もちつき・クリスマス会
クリスマスコンサート参加（十全総合病院）

- 1月 記念撮影・新居浜ネットワーク撮影
 2月 節分・生活発表会（たのしいあつまり）・年長児お茶会
 3月 交通安全教室・乳児遠足・お別れ遠足・お別れ会・卒園式
 （毎月実施）身体測定・避難訓練 （随時）なかよしの日《異年齢交流》

5. 地域交流、ボランティア、実習生

（1）地域交流状況

- ・お誕生会 ・夕涼み会 ・デイサービス交流
 ・運動会 ・「たのしいあつまり」（生活発表会）等

（2）ボランティア状況

《夕涼み会》

- ・十全看護専門学校 計 20名

（3）実習生受け入れ状況

- | | | |
|------------|----------|-------|
| ・十全看護専門学校 | （小児看護学） | 30名 |
| ・今治明德短期大学 | （保育実習） | 1名 |
| ・新居浜西高等学校 | （体験学習） | 22名 |
| ・新居浜商業高等学校 | （体験学習） | 3名 |
| ・小松高等学校 | （体験学習） | 1名 |
| ・新居浜北中学校 | （進路学習講座） | 11名 |
| | | 計 68名 |

特別養護老人ホーム
ハートランド三恵

平成29年度事業報告

1. 経営方針

平成27年の介護報酬マイナス改定の影響緩和のため、堅実な経営の継続を目指して、今一度原点に立ち返り、三恵会行動指針の5項目を再認識し、小さなことから実践して参りました。自分が利用したい施設、自分の家族を利用させたい施設となるよう、職員の意識改革に取り組んで参りました。

また、高齢者は転倒すれば、骨が脆いため骨折のリスクが高く、最悪の場合入院となり、施設にとって大変な経済リスクが発生するため、しっかりと要因分析を行い、事故の原因を特定し、再発防止に向けて介護方法の見直しを図ったり、5S活動による環境整備を行い、事故防止の対策に取り組んで参りました。

長年の懸案であった相談員部門が何とか落ち着き、退所後の空きベッド期間を削るべく、早めの対応に心がけました。短期入所については、夜勤の出来る介護職員の不足で、6月以降新規受け入れの制限をせざるを得なかったため、年間稼働率は58.5%に留まりました。

転倒骨折による入院は抑えられましたが、高齢入所者の疾患による入院が4月、9月、12～3月に多数発生し、年間1日平均で4名と、施設経営に大きな影響を及ぼしました。

通所部門は9月以降順調に稼働率を上げて参りましたが、近隣地域でのインフルエンザ異常発症が2月に起こり、一時期低迷しましたが、3月以降は盛り返しております。

4月から8月まで嘱託医が変更となり、その間は早めの入院を余儀なくされた関係で、入院者数が思いの外増えてしまいました。

食事の安定供給のため、29年4月より給食業務を外注業務委託しましたが、委託料が消費税等の関係で従来よりかなり割高になった割には、期待した程の成果は見られず、今後の体制の検討が必要であり、その方策は研究中です。

施設の北館は開設後四半世紀を経過しており、今年度においても空調チラー2基のうち1基が経年劣化のため故障し、入札を経て取り換え交換しました。また、一般浴槽にある入浴用リフトについても故障し、入札を経て取り換え交換しました。また、関東地域での事件をきっかけに、防犯監視カメラを4台施設各所に設置しました。

入所も短期入所も通所も需要はあります。職員全員が背水の陣で、危機感を持ち、施設の現状を理解したうえで、自らが知人を勧誘し、北館スタッフを1日でも早く充足させ、現在のショート制限運営を1日でも早く解除できるよう頑張ります。

2. 重点課題、具体的な取り組み事項

(1) 利用者を大切な人として（誠実な福祉）

①職員間の情報共有と確実な実践

②5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）活動の徹底

(2) 人材育成の充実（確実な知識と技術）

①自分で考え、自分で行動できる職員の育成

- ②施設内研修の充実
- (3) 事故防止対策の充実と地域支援への取り組み（堅実な経営）
 - ①事故の要因分析の徹底と業務改善の取り組みを通じて、危機管理の強化を図る
 - ②介護予防・日常生活支援総合事業への取り組み
 - ③利用者の入院を減らす取り組み

3. 研修計画

(1) 施設内研修

①全職員対象

- ・研修報告及び伝達講習（12回） ・テーマ別研修（10回）
- ・講演形式の研修（2回） ・各種指針に基づいた研修（6回）

②部署毎

- ・月1回部署毎に会を持ち、改善や展望について意見交換
- ・2か月に1回ユニット毎に会を持ち、処遇の統一等の意見交換

(2) 施設外研修

- ・愛媛県老人福祉施設協議会、東予老人福祉施設協議会主催の研修会
- ・愛媛県栄養士会、新居浜市栄養士会主催の研修
- ・介護支援専門員の各種研修
- ・愛媛県、愛媛県東予地方局、新居浜市主催の各種研修会
- ・愛媛県社会福祉協議会、新居浜市社会福祉協議会主催の各種研修会

4. 行事予定（年間）

(1) 毎月の共通行事

- ・神事・誕生会・趣味活動・音の広場・カラオケ大会・外出（各種花見、外食等）
- ・手づくりおやつ・なかよし喫茶（毎週1回）・お参りツアー
- ・絵手紙教室・習字で学ぼう・健康体操・カレンダーづくり

(2) 月別行事

4月	・お花見	5月	・園庭での弁当給食・外出
6月	・お参りツアー・おやつ作り	7月	・夕涼み会・七夕祭
8月	・夏祭り・ワークキャンプ	9月	・敬老会・観月会・個別外出
10月	・太鼓台・個別外出・ミニ運動会	11月	・紅葉見物・園児と交流
12月	・忘年会・クリスマス会・しめ縄作り・餅つき	1月	・新年会・七草粥・鏡開き・外出
2月	・節分・バレンタインデー・ふれあい訪問	3月	・ひな祭り・園児との交流・外出

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

- ・夏祭り ・地区太鼓台訪問（春、秋） ・夕涼み会 ・敬老会

- ・萩生保育園（七夕訪問、夏祭り） ・やすらぎの郷文化祭
- ・公民館活動への協力と交流 ・外出行事による社会活動
- ・地域交流会の継続開催

（２）ボランティア活動

①職員ボランティア活動

- ・地域清掃（年２回）

②ボランティア受入状況

- ・ハートランドと手をつなぐ会（随時） ・音の広場（毎週金・土曜日）
- ・コーラスグループ ・楽器演奏グループ ・傾聴ボランティア「クローバー」
- ・なかよし喫茶 ・萩生保育園 ・聖マリア幼稚園
- ・中萩小学校 ・中萩中学校 ・大生院中学校 ・新居浜南高等学校
- ・習字で遊ぼう（月２回） ・絵手紙教室（月２回）

（３）実習生の受入状況

- ・新居浜南高等学校 ・十全看護専門学校 ・愛媛大学

老人保健施設
リハビリステーション三恵荘

平成29年度事業報告

1、経営方針

まず施設経営について、在宅復帰への基盤作り・リハビリ現場の整備を行い95%の稼働を目標にあげていましたが、結果として在宅復帰の原点であるリハビリの内容整備と人員整備は一定の成果がありました、しかし稼働率目標には遠く及ばず89・03%の稼働で対前年787名の延入所者数の増で終わり、今後に大きな課題を残す結果になりました。

一方、通所リハビリテーション事業所は目標であった「愛される事業所作り」は一定の成果があり格段の稼働向上がありました。

結果として利用定員の増員を行い、対前年788名の利用増がありました。入所・通所リハ共に今後を見越した認知症対応の正しい知識の取得と対応機器の整備も計画通り行う事ができ今後も継続し現場職員全員が正しい認知症の知識を持つように努力を継続いたします。

2、重点課題と具体的取り組み

「誠実な福祉」～その人にあった目標のあるサービスの提供。

「確実な知識と技術」～認知症教育の実施。他の環境を知り刺激のある環境作り。

「堅実な経営」～入所・利用者の地道な掘り起こし。適切な人員配置

上記の各目標については堅実な実施が出来たと思います。

3、研修計画及び4、行事計画は確実に実施できました。

5、地域交流・ボランティア・実習生の事業について

地域交流と実習生受け入れは計画通り実施できたが、ボランティアについては一部達成できていない部分があり反省を要することとなりました。

老人保健施設
希望の館

平成29年度事業報告

1. 経営方針

事業計画で掲げた「数値目標」達成に向け取組んだ結果について報告する。

目標：入所・短期稼働率 95%、在宅復帰率 45% ⇒ 2年計画で「強化型」を

結果： 〃 96.2%、 〃 54.5% ⇒ 来年度は「強化型」へ挑戦

目標：通所リハ稼働率 80% ⇒ 自分達の取組に自信を持って（包括等へ PR）

結果： 〃 69.8% ⇒ 来年度も必要な「変化」と粘り強い取組みを継続

目標：居宅月間契約者数 140 件 ⇒ 特に十全附属 HP（連携室）との連携強化

結果： 〃 145 件 ⇒ 来年度は特にデイケアへの援護（策）を期待

- 入所部門：今年度は入所稼働率、在宅復帰率共に過去最高の結果であった。その最大の要因は、入院者数の大幅な減少（昨年度比 70%減・37⇒11 名）である。ただ、一方で「ベッド回転率」の低下というジレンマも生じており今後の課題となった。来年度以降は、新しい介護保険のルールの中で『強化型』を現実のものとするべく取組みたい。
- 通所部門：今年も一生懸命取り組んだが、目標稼働率には届かなかった。ただ、新たな取組みとしてデイ主任による実績配布を兼ねた居宅訪問や、リハスタッフの祝日出勤等「今やるべきこと」を自らが考え実践したことは、大きな「前進」であり今後に繋がるものと確信している。今後は PDCA サイクルを活用しながら、活動内容を自らが検証し「改善」に向け粘り強く取組んで参りたい。
- 居宅部門：施設が示した目標件数に対し、これをクリアーするため更に 5 件上乗せした独自の目標を設定し取組んだ結果、上記のとおり目標（+5）達成することが出来た。このことは、改めて彼等の当事者意識とポテンシャルの高さを感じさせる結果となった。今後は、その豊富な経験を駆使し、通所リハの稼働率アップへの貢献にも期待したい。

以上、今年度も上記のとおり三部門共ほぼ及第点であった。特に入所部門については、ほぼ限界と思われた昨年度をも上回る実績を残すことが出来た。このことについては、西村 Dr を中心としたスタッフ全員の努力の賜物であり心から感謝したい。

2. 重点課題と具体的な取り組み（⇒結果）

(1) 「誠実な福祉」の実践（利用者の QOL の向上）

- ①「感染症からご利用者を護る」⇒インフル、ノロウィルス共にシャットアウト
- ②「事故発生時の迅速且つ誠実な対応」⇒お陰様で大きなトラブルなく経過
- ③「接遇力のアップ」⇒常に気持ちの良い「あいさつ」の実践に努めた。

(2) 「確実な知識と技術」の習得（職員の資質向上）

- ①「チーム力アップ」⇒お陰様で入院者数昨年度比 70%減（37 名⇒11 名）
- ②「防犯カメラ設置」⇒年度内に離設者があったが、とても有効であった。

(3) 「堅実な経営」の維持（経営の方向性 ⇒ 収益アップ > 経費削減）

- ①「在宅復帰率平均 45%以上を目指す」⇒目標クリアー！（次は「強化型」を…）
- ②「在宅復帰支援体制」の強化⇒安定した稼働率（＝安定経営）に貢献

3. 研修計画

(1) 施設内

新入職員研修 感染予防勉強会 認知症関する勉強会 褥創予防に関する勉強会 事故対策に関する勉強会 虐待・身体拘束のための勉強会 プライバシー保護 接遇研修等 排泄ケア研修 メンタルヘルス研修など

(2) 施設外

三恵会法人研修 介護職員による喀痰吸引等研修
介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者講習
老人保健施設四国ブロック大会 ターミナルケア研修
愛媛理学・作業療法士学会 介護支援専門員更新研修
その他虐待・身体拘束、褥創、感染、事故予防等に関する研修など

4. 行事計画（年間）

4月 お花見・やかた祭り
5月 アニマルセラピー
6月 カラオケ大会
7月 七夕会、ビアホール
8月 夏祭り喫茶
9月 敬老会
10月 運動会、地方祭
11月 文化祭（東温市）
12月 クリスマス・忘年会、お餅つき
1月 新年会
2月 節分
3月 春の演奏会、菜の花ドライブ

5. ボランティア・実習生

(1) ボランティア受入状況

趣味クラブ（月2回）、民謡教室（月1回）、書道教室（月1回）、華道教室（月1回）オカリナ演奏（月1回）、ショッピング（月2回）、ともしび会（月1回）、サマーボランティア（年1回）、ウインターボランティア（年1回）傾聴ボランティア（月1回）など

(2) 実習生の受入状況

学校等：十全医療学院 愛媛医療福祉専門学校 愛媛大学医学部
河原医療大学校看護学科

通所介護事業所
おいでんや

平成29年度 事業報告

1. 経営方針

職員一人一人の ・「したい」という欲求 ・「できる」という自信 ・「やろう」という勇気で新しい風を吹き込めるよう取り組んできました。

- ① 受け入れ困難な利用者に対する対応 …… 独居のため朝の準備に手間取る利用者・医療的処置の比重が重い利用者・他事業所からの編入・座位も困難なほどの利用者の機械浴対応などがありましたが、職員同士で知恵を出し合い、前例に捉われることなく柔軟な対応を行い、できる限り受け入れる努力をしてきました。
- ② できる事は自分でしてもらおう …… 年間を通して数回〔お知らせ〕という形で利用者の前でお話する機会を設けました。回数を重ねるごとに「できる事は自分でしないとね！」という声も聞かれるなど、利用者の意識も変わってきたように思います。
- ③ 館内世代間交流 …… コミュニティ開設以来ずっと継続して実施している全館合同交流行事（夏まつり・もちつき大会・館長杯カラオケ大会…）がありますが、これまでは土曜日の開催ばかりだったものを、本年度は、夏まつりを7月の日曜日、もちつき大会は冬休み中の水曜日、館長杯カラオケ大会は春休み中の木曜日に開催するなどし、いろいろな曜日の利用者がいろいろな世代の利用者と交流できる機会を持てるように工夫しました。

2. 重点課題と取り組み

1) 稼働率の向上

- ④ 数値目標 …… 1日あたり22名以上を目指して取り組んできました。結果は20.7名。稼働率にすると82.7%でした。目標には届きませんでしたが、初めて80%台を突破することができ、開設以来最高の稼働率を上げることができました。12月から2月の冬場の数字の落ち込みがなければ、もう少し上を目指せる位置までできています。
- ⑤ 月2回の居宅介護支援事業所の訪問も継続して行っています。直接顔を合わせてケアマネさんと対話することで、お互いに無理の言い合える関係を築けているように感じています。

2) 職員の資質向上 …… 親しさゆえの普段の何気ない言葉使いを注意し合ってきました。（ex ちゃん付け・「〇〇してあげる」・「こっちおいで」など）お客様であり、人生の先輩である利用者の皆さんに失礼のない接遇態度を今後も引き続き確認できる職員集団であるべきと考えます。

同時に、物を大切に使うことも心掛けた1年でした。

3) 独創性を加味したサービスの展開 …… 計画に基づき行事を実行できました。併せて、法人内の他事業所との交流（3月17日(土)・ハートランド三恵デイサービス）も実現できました。

4) 地域交流・ボランティア

5) 記録の充実については十分ではありませんでしたので、今後も引き続きの課題となりました。

3. 研修計画

1) 施設内研修 ①②については85%以上の出席率で実施。

2) 施設外研修は、主に時間外での自主参加の研修に積極的に出席しました。

4. 年間行事

・5月の芍薬見物は中止。

・館内合同行事については、経営方針の③でも触れましたが、これまでの前例に捉われず実施できました。特に7月2日(日)の日中に開催した夏まつりに関しては、おいでんや利用者の送迎も行い、今までは一度も参加したことのなかった(できなかった)利用者も参加することができ、非常に喜んでいただけて好評でした。

・追加して、29年度三恵会研究発表会でコミュニティ代表で発表の場を与えていただき、自分たちの介護を振り返るいい機会になりました。

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・個別外出	・芍薬見物 ・個別外出	・菖蒲見物	・夏まつり(合) ・七夕まつり ・社会見学
8月	9月	10月	11月
・社会見学	・個別外出 ・防火訓練	・いきいきフェスティバル ・太鼓台見物 ・個別外出	・校区文化祭 ・紅葉見物
12月	1月	2月	3月
・もちつき(合) ・クリスマス会 ・忘年会	・初詣 ・書初め ・初釜	・カラオケ大会(合) ・節分 ・梅見物	・ひな祭り ・防火訓練

多機能型事業所
わくわくクラブ

平成 29 年度 事業報告

1. 経営方針

障がいを持つ利用者やご家族のニーズ及び地域生活のニーズに細やかに沿う支援の充実や生まれ育った地域での生活を支援する事業の推進を図りました。

特に、放課後等デイサービスは障がい福祉サービスの中で多面的に注目をされている事業です。制度創設の趣旨に沿った利用者ファーストの運営を実践しました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 利用者受け入れ

生活介護は、わくわくクラブがバリアフリーで入浴設備もあることのハード面を活かし、また、ソフト面では、日常生活支援に加え、各種全体活動や個別活動の充実を図りました。又、職員のスキルアップに努め、ある程度の受け入れの素地はできていましたが、残念ながら今年度は特別支援学校の新規卒業生の利用契約までには至っておりません。来年度に向けた大きな課題と考えています。

放課後等デイサービスにつきましては、利用者の発達段階に応じた療育・安心して過ごしていただける居場所づくりを目指し、職員が発達支援の専門的な知識・技術の習得に努めました。又、保育所等との情報交換にも取り組みました。その結果、2 名の新規利用者という成果になりました。

(2) 支援内容の充実

- ① 生活介護事業・放課後等デイサービス共に、計画相談制度における、計画相談員との連携による利用者の希望に沿った個別支援計画の策定や実践に努めました。また、放課後等デイサービスにおいては、子どもの将来を見通した、また、放課後等デイサービスガイドラインの趣旨に沿った、信頼される支援を行って参りました。
- ② 生活介護事業の中で業者請負作業を通じての社会参加の機会を提供して参りました。また自主生品の充実、さらには、スポーツや音楽、作品展などの地域行事参加を支援メニューに取り入れ、より豊かな社会参加を実践し、一人ひとりのニーズに沿った支援に努めました。
- ③ 平成 29 年度は、全国障がい者スポーツ大会が愛媛県で開催されました。その選考大会に 16 人が参加し、それぞれが練習の成果を発揮しました。また大会後も、スポーツを通しての健康づくりや社会参加の理念に沿い、生活の中にスポーツの楽しさを体験する機会を取り入れて参りました。

(3) ネットワークづくり

平成 30 年 3 月に家族交流会、家族参加の食事会を開催し、利用者・家族・職員間の情報交換や連携を図り、相互理解を深められるよう努めました。

その他、障がい者支援関連機関との連携のさらなる充実を図り、地域行事への参加を通じて利用者の社会参加に繋げて参りました。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

- ・職員全体会・スタッフ会・フロア会(月1回)

職員の資質向上に向けてコミュニティハウス三恵での職員研修を実施しました。館内各委員会(虐待防止・リスクマネジメント・感染予防等)による研修及び法人人材バンクの活用、外来講師による研修等を行いました。

- ・生活介護・放課後等デイサービスに関わる職員として、必要な知識やスキルアップのための勉強会や研修をフロア会等において事業所内で実施しました。

(2) 施設外研修

- ・三恵会法人研修および関係機関からの研修案内には計画的に参加しました。
- ・先進福祉施設や福祉関係機関からの研修情報を活かし、福祉施設職員として資格取得や毎日の支援の根拠となる知識・技術・価値の習得に努め、支援の質の向上に努めました。

4. 行事实績

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・河川敷での運動 ・図書館 ・放課後等デイサービス新規利用者受け入れ	・公園外出 ・鯉のぼり作り ・医師の健診 ・愛媛県障がい者スポーツ大会参加 ・蛭子大祭	・ドライブ アジサイ見物 ・干支陶芸作品製作 ・おやつ作り ・玉ねぎ・じゃが芋収穫・販売	・七夕祭り ・夏祭り(合同行事) ・福祉の集い参加 ・あかがねミュージアム見学
8月	9月	10月	11月
・マリンパーク ・放課後等デイサービス一日外出 ・おやつ作り ・医師の健診 ・買い物練習	・滝の宮公園 ・他事業所との交流(クッキー販売) ・消防訓練 ・敬老の日の交流行事	・地方祭見学 ・公園外出 ・生き生きフェスティバル ・さつまいも収穫・販売	・支援学校文化祭見学 ・やすらぎ文化祭 ・買い物練習 ・医師の健診 ・一日外出(香川) ・生き生きフェスティバル
12月	1月	2月	3月
・イオン作品展 ・十全総合病院クリスマスコンサート参加 ・クリスマス会 ・もちつき	・初詣 ・抱負絵馬作り・書初め ・成人のお祝い ・おやつ作り ・冬の七夕飾り出品	・節分 ・冬の七夕見学 ・医師の健診 ・図書館	・ひなまつり ・消防訓練 ・家族交流会 ・公園外出 ・お食事会 ・館長杯カラオケ大会

※毎月、清掃ウォーキング・体育館での運動・図書館利用・他事業所との交流等も行う。

放課後児童クラブ
ともだちパーク

平成29年度 事業報告

1. 経営方針

(1)働く女性の支援

『安心して子どもを育てながら、働きたい』の働く女性支援の原点に、安全に生活が出来る場所として、子どもたちの成長を保護者の方と一緒に喜びあうことが出来ました。

(2)交流の場

今年度は、1年生の利用者が15人、登録者合計数59人でスタートしました。

いろいろな地域や異年齢とのかかわりの中で、子ども達も色々な経験や友だちとのつながりが出来ているのを実感する出来事がたくさんありました。

また、世代間交流を通して相手に対してのやさしさも芽生えてきていると感じました。

(3)民間の児童クラブの特徴

早朝・延長時間の受け入れ・学校が台風などで臨時休校になった場合の受け入れ・長期休暇時の行事の充実・昼食の提供・高学年の受け入れ・他校との交流・高齢者との交流など、保護者のニーズに添った運営をしてまいりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1)利用児童の定員確保・パンフレットの見直し

- ・平日構成する利用希望者の児童数平均36人~45人を目指し、年間平均37.5人になりました。
- ・パンフレットの見直しをおこない、川東地区の小学校の新入生に向けて小学校健康診断の日に入会案内書を、放課後等デイサービスと一緒に配布しました。
- ・三恵会、十全グループの職員割引（登録料）を実施
- ・重要事項説明書を説明や個人情報など、利用者保護者の同意書を頂きました。
- ・愛顔の子育て応援アプリ『きらきらナビ』から、ともだちパークの情報を検索することが出来ます。

(2)放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定

- ・来館時の手洗いやうがいを行い健康管理の徹底
- ・流行性の疾病対策、室内などの消毒
- ・学校へ各学年の下校時間に合わせてのお迎えと共に交通安全
- ・ひとりひとりへの言葉かけの配慮とともに保護者への連絡

(3)遊びや宿題等の学習活動に関する援助

- ・玩具の安全確認や正しい遊び方など、ひとりひとりに寄り添いながら集団遊びへの誘導を図りました。
- ・来館後に宿題が取り組める環境を整え、声かけを行いサポートしました。
- ・夏休みには、子ども達が楽しく過ごせる取り組みを行いました。

今年度の新しい取り組みとして『食育講座』『山崎製パン・サンドイッチ教室』

『ゆうらり高齢者施設慰問』『ぬりえセラピー』など色々な体験を行いました。

(4)基本的生活習慣の習得に関する援助

- ・自分の持ち物の片付けや遊んだ物の片付けの声かけ
- ・食事やおやつなどのマナーや来館時のあいさつなどの指導
- ・良い事・してはいけない事の区別がつくような声かけ

(5)発達支援児への対応

- ・家庭や学校との連絡を取りながら、学童での生活に慣れる工夫を行いました。

(6)職員の心構え

- ・フロア会を随時行い、共通意識を持ち取り組む
- ・研修会に積極的に参加し、指導員としてのスキルアップを目指す
- ・無駄のないよう意識を持つ

(7)交流

- ・にこちゃんパーク・おいでんやとの交流・高齢者施設ゆうらり慰問
- ・館内合同行事の参加（誕生会・夏祭り・もちつき・館長杯カラオケ大会等）

3. 研修計画

- ・平成 29 年度 放課後児童支援員等資質向上研修会
- ・第 42 回 全国学童保育指導員学校(四国大会)
- ・平成 29 年度 全国子どもの健全育成リーダー養成セミナー

4. 行事報告

1 学期	・東浜公園・神郷公園・お話会（回転木馬）
夏休み	・合同行事～夏祭り・誕生会 ・プール遊び・多喜浜体育館で運動遊び・神郷公園・陶芸の絵付け ・虫取り・ホットケーキ作り・ラスク作り ・お楽しみ会（すいかわり・新聞ゲーム等）・ゆうらり慰問 ・高専出前講座『液体窒素の実験』 ・出前講座『たまごと楕円の積木あそび』『交通安全教室』 『お話会（回転木馬）』『ぬり絵セラピー』 ・ボランティア『押し花制作』『食育講座』 『山崎パン製サンドイッチ教室』 ・おいでんやの食事配膳の手伝い・にこちゃんパークの誕生会等
2 学期	・合同行事～もちつき大会・神郷公園・黒島海浜公園 ・敬老の日プレゼント作り・生き生きフェスティバルの作品作り ・クリスマスの飾り付け・避難訓練・牛乳パック工作 ・やすらぎの郷文化祭と神郷地区文化祭に作品展示 ・にこちゃんパークの誕生会等
3 学期	・初詣（八幡神社）・合同行事～館長杯カラオケ大会 ・東浜公園・折り紙・紙飛行機・なわとび・黒島海浜公園 ・避難訓練 ・にこちゃんパークの誕生会等
<外出>	・東浜公園・黒島海浜公園・神郷公園・多喜浜体育館 ・八幡神社・ゆうらり慰問
<出前講座>	・液体窒素実験（高専）・「回転木馬」による本の読み聞かせ ・たまごと楕円の積木あそび・交通安全教室・ぬり絵セラピー
<ボランティア>	・押し花制作・山崎パン製サンドイッチ教室・食育講座

※ 毎月 「おいでんや」との交流を実施

※ 随時 「にこちゃんパーク」との交流を実施

地域子育て支援事業(ひろば型)
にこちゃんパーク

平成29年度 事業報告

1. 経営方針

(1) 交流の場と居場所の提供

乳幼児の親子が安心して過ごせる場所として、予約無しで利用でき、ゆったりとした雰囲気が喜ばれました。

(2) 子育て相談

子育て中の親子同士の出会いを通して情報交換など交流も見られました。

(3) 情報の共有

市役所（子育て支援課）を中心に、子育て支援事業全8施設で、情報交換を行い、交流を持つことで、よりよい支援に繋がりました。

2. 重点課題と具体的な取組

(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進が出来ました

(2) 子育て等に関する相談、援助の実施

- ・ 市政だよりに掲載の曜日・時間を記載し、電話での相談を受ける。
- ・ 子育て支援課の紹介で、子育てに不安な親子（母親）が来館し、不安が少しでも解消できるようなかわりを持ちました。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・ 市役所のホームページに、にこちゃんだよりの掲載、川東の公民館にもにこちゃんだよりをおかさせていただきました。
- ・ 利用者様の口コミでも、新しいご利用者様も増え、弟や妹が生まれ遊びに来てくれる方もいます。

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・ つくってあそぼうで毎月季節が感じられるおもちゃ作りを紹介
- ・ 季節感の有るカレンダー作りを行いました。
- ・ お話会（回転木馬）や木の玉プール（大五木材）・親子でヨガ（村上氏）のボランティアに定期的に来て頂きました。

3. 研修計画

- ・ 市役所（子育て支援課）を中心に、子育て支援事業施設・全8施設の連絡協議会（年6回）に参加（県内施設の視察）
- ・ 平成29年度愛媛県子育て支援員研修(子育て支援員研修終了2名)
- ・ 全国子育てひろば実践交流セミナーin 高知

4. 行事計画

めあて：季節を感じながら親子で楽しく過ごす

毎月：お話会（回転木馬さん）・誕生会（写真と手形入り誕生カード）

つくって遊ぼう（工作）・身体測定（成長記録カード）

親子でヨガ・カレンダー作り・子育て相談

随 時：小学生・高齢者・障がい者との交流
 昼食タイム（12:00 から 13:00）

行 事 報 告

	つくって遊ぼう カレンダー作り	誕生会・親子でヨガ・お話会(回転木馬) 身体測定・その他
4 月	かぶと 5 月：こいのぼり	小学生による誕生会（絵本・歌・踊り） 市役所ロビー展(4 月 17 日～21 日)
5 月	フリスビー 6 月： あじさいとかたつむり	小学生との交流 リズムあそび(親子の触れ合いあそび)
6 月	時計 7 月：たなばた	木の玉プール(大五木材)・高齢者との交流 しゃぼん玉あそび
7 月	七夕笹飾り 8 月：ひまわり	小学生との交流・館内合同（夏まつり） 高齢者との交流
8 月	コロコロ水槽 9 月：コスモスとトンボ	小学生による誕生会 (クイズ・紙芝居・踊など)
9 月	クルクルストロー 10 月：ハロウィン (かぼちゃ・魔女)	避難訓練・紙風船あそび 高齢者との交流
10 月	太鼓台 11 月：秋のくだもの (りんご・ぶどう・くり)	小学生との交流・楽器あそび お祭りごっこ
11 月	風車 12 月：クリスマス リース	校区文化祭に写真展示 リズムあそび(親子の触れ合いあそび)
12 月	クリスマスツリー 1 月：お正月	木の玉プール(大五木材)・風船あそび 楽器あそび・小学生との交流 館内合同(もちつき)
1 月	鬼のお面 2 月：節分(鬼)	年賀状・踊り リズムあそび(親子の触れ合いあそび)
2 月	ひなかざり 3 月：犬のおひなさま	高齢者との交流・風船あそび
3 月	ペットボトルマラカス 4 月：ちゅうりっぷ	木の玉プール(大五木材) 避難訓練・小学生との交流 明治大学マンドリン倶楽部演奏会

ユニット型地域密着型老人福祉施設
うみかぜ

平成29年度事業報告

1. 経営方針

平成29年度も介護保険制度を取り巻く状況は厳しく、安定的な施設運営をするためには、人員配置の見直しや業務改善等を積極的に実施し、イノベーションできる組織づくりが急務であると考え取り組みました。各部署が目標達成に向けて努力、創意工夫し、毎月成果と今後の取り組みを報告し、自主的に目標管理を実践しました。又、各専門委員会は委員長中心に職場環境の改善と向上に寄与し、チームケアの強化と職員のモチベーションアップに繋がり、自主的に成長できる組織に近づけたと思います。その成果として、うみかぜ入所稼働率 98.4%、ショート稼働率 88.9%と開設以来最高の実績を上げる事ができました。

利用者様が最後の日まで尊厳を持って暮らし、その生涯を通じて人間らしい存在であり続けることができるよう、昨年よりケアの基本としてユマニチュード技法を取り入れていますが、勉強不足やゆっくり寄り添う時間の確保が難しく、今後の課題となりました。

地域活動としては現在実施している「認知症カフェ」「移動販売」の取り組みの活性化を図り、居心地良い空間と時間を提供し気軽に親しんで頂けるよう地域のボランティアの協力を得て継続しております。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①「認知症カフェ」に地域のボランティアの「歌」「リハビリ体操」を取り入れた。
- ②施設サービス向上委員会が中心となって、週1回施設内の見回りをし環境整備の改善を図ることができた。
- ③感染症予防のために11月から毎月勉強会を実施し、感染症が発生することなく過す事ができた。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①事故やヒヤリハットから学びのワンポイントレッスンを実施し実践へ繋げた。
- ②全体会、ユニット会にて事例検討を実施し認知症の学びを深めることができた。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①育児休業等で人員が不足している介護部門に対して、相談員、看護職員、事務職員等が協力しサービスが低下しないよう努めた。
- ②主治医との連携を密にし、健康管理を行い早めの対応に心がけ入院を少なくすることができた。
- ③空床利用できるときは、積極的に居宅に呼びかけ稼働率を上げた。又ショート利用者に対しユニット活動を提供し、滞在中有意義に過ごしていただけるよう努めた。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・各種指針に基づいた研修（8回）
- ・感染症対策（DVDを活用）
- ・認知症ケア（6回）
- ・緊急時の対応（実地）
- ・介護技術の実習
- ・グループ討議研修（2回）
- ・ユニット会（1回/2ヶ月）
- ・看取りケア（外部講師）

(2) 施設外

- ・老人福祉施設協議会主催の研修会
- ・愛媛県主催 喀痰吸引の研修会
介護支援専門員の各種研修
認知症介護実務者研修
- ・社会福祉協議会主催の研修会
- ・ユマニチュード技法の研修会
- ・地域密着型サービス事業所各種研修会
- ・ノーリフト研修会

4. 行事实績

- | | |
|-------------------|------------------|
| 4月 花見 | 10月 運動会、太鼓祭り |
| 5月 ドライブ（ふじ、芍薬見物） | 11月 にぎり寿司バイキング、 |
| 6月 恵海まつり、 | 12月 クリスマス会、 |
| 7月 セタ、ソーメン流し | 1月 初詣、お茶会 |
| 8月 ビヤガーデン、ワークキャンプ | 2月 節分、にぎり寿司バイキング |
| 9月 敬老会、芋たき、防火訓練 | 3月 ひな祭り、防災・防火訓練 |
- <毎月の共通行事> ユニット活動（誕生会、おやつ作り、個別外出）、3B体操
生け花、移動販売、

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・恵海まつり
- ・太鼓台訪問
- ・多喜浜校区自治会との交流（運動会、文化祭、芋炊き、定例会）
- ・近隣施設との交流（GHしおさい）
- ・運営推進会議（2ヶ月に1回）
- ・めぐみカフェ
- ・職員地域清掃（月1～2回）
- ・多喜浜保育園

(2) ボランティア受け入れ

- ・歌、コーラスグループ
- ・楽器演奏
- ・マジック
- ・生け花
- ・踊り
- ・和太鼓

グループホーム
かがやき

平成29年度事業報告

1. 経営方針

「かがやき」では、利用者様の真のニーズは何気ない会話の中に隠れていると考え、日々の関わりの中から個別の思いや状態を把握し、職員・家族で情報を共有し希望が実現するよう以下の3点を重点に取り組んでまいりました。

(1) 気づきに沿った夢プランを実施する。

利用者様の願いや思いを叶えるために、担当の介護職員が中心となって2名の利用者様の夢プランを実施することができました。現役時代の記憶が蘇った瞬間や親子水入らずで楽しい時間を過ごすときの笑顔等、施設では見ることでできない表情に出合い、職員も感動しモチベーションアップに繋がることができました。

(2) 意識的に外出の機会をつくる。

希望に応じて随時の外出支援を実施しました。ドライブ、買い物、散歩等は、日々の楽しみになるばかりではなく、生活のリズムや心のゆとりを生み出すことや、周囲への関心等能動性の向上にも繋がりました。

(3) 「恵海祭り」「めぐみカフェ」「移動販売」を通して地域交流を行う。

地域の皆様にとって居心地良い空間と時間を提供し、活力を見出せる場として気軽に親しんでいただけるよう取り組んでまいりました。この取り組みを通して、利用者様が地域住民との日常的な関わりができ、定期的に会えることを楽しみにしており、今後も継続していきたいと思えます。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

- ①現在の認知症ケアにユマニチュード技法を日常的に取り入れることができず今後の課題となった。
- ②利用者様から自発的外出の依頼が日常的に出るようになり、買い物やドライブが増え、意欲的で張りのある生活を送ることができた。
- ③感染症予防のため11月から毎月勉強会を実施し、発生を防止することができた。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

- ①現場の困難事例検討にて認知症介護を学び、統一したケアに努めた。
- ②事故やヒヤリハットからワンポイントレッスンを実施し、即実践できるように全体会等で学びを深めた。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

- ①体調の変化に気を配り、受診等の早期対応を行い健康管理に努め入院を予防できた。
- ②入居待機者の情報収集を細目に実施し、スムーズな入居に繋がり空床期間をできるだけでなくすように努めた。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・各種指針に基づいた研修（8回）
- ・感染症対策（DVDを活用）
- ・認知症ケア（6回）
- ・緊急時の対応（実地）
- ・介護技術の実習
- ・グループ討議研修（2回）
- ・ユニット会（1回/2ヶ月）
- ・看取りケア（外部講師）

(2) 施設外

- ・愛媛県主催 介護支援専門員の各種研修
認知症介護実務者研修
- ・社会福祉協議会主催の研修会
- ・地域密着型サービス事業所各種研修会
- ・ユマニチュード技法の研修会
- ・相互研修

4. 行事实績

4月 花見	10月 運動会、太鼓祭り
5月 ドライブ（ふじ、芍薬見物）	11月 にぎり寿司バイキング、
6月 恵海まつり	12月 クリスマス会、
7月 七夕、ソーメン流し	1月 初詣、お茶会
8月 ビヤガーデン、ワークキャンプ	2月 節分、にぎり寿司バイキング
9月 敬老会、芋たき、防火訓練	3月 ひな祭り 防災・防火訓練
<毎月の共通行事> ユニット活動（誕生会、おやつ作り、個別外出）、3B体操 生け花、移動販売、	

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・恵海まつり
- ・太鼓台訪問
- ・多喜浜校区自治会との交流（運動会、文化祭、芋たき、定例会）
- ・近隣施設との交流（GHしおさい）
- ・運営推進会議（2ヶ月に1回）
- ・めぐみカフェ
- ・職員地域清掃（月1～2回）
- ・多喜浜保育園

(2) ボランティア受け入れ

- ・歌、コーラスグループ
- ・楽器演奏
- ・マジック
- ・生け花
- ・バトン演技
- ・踊り
- ・銭太鼓
- ・和太鼓

兒童福祉施設
中萩保育園

平成29年度 事業報告

1、経営方針

平成24年民営化より6年。その年0歳児で入園した子ども達が平成30年3月、元気いっぱいに卒園しました。子ども達が安心して生活できるよう一人一人の思いに丁寧に寄り添い、子育てに不安な保護者に寄り添い、職員で同じ方向性を持ち、保護者の方々に信頼される保育園を目指してきました。これからもその気持ちを忘れず、また、社会の変化とともに変わる保育ニーズに合わせた保育園づくり、地域に根差した保育園を目指していきたいと思います。

平成29年度は、平成30年4月より施行される保育所保育指針の周知期間でしたが、職員間で内容の理解までには至りませんでした。今後、職員間で理解を深めていき「健やかにのびのびと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」などの視点とともに養護と教育の一体性を意識した保育を行っていききたいと思います。

また、支援を必要とする子どもが多く在籍していた年でもあり、障がい児保育の重要性、専門知識を身につけることの必要性を改めて考えさせられる年になりました。

国においては保育士等の処遇改善、保育の質の向上のためのキャリアアップ研修など、予算の充実が図られています。保育の質を高めていくため職員間で知恵と工夫を出し合い協働を図っていく必要があると思います。そのためにも、働きやすくやりがいを感じられるよう職場の環境づくりを行っていききたいと思います。

2、重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」の実践

①子どもの健康・安全な生活を保障する

- ・朝の受け入れ時の視診、検温などの健康観察を行い、元気に生活できるように努めた。
- ・毎日、保育室や廊下の消毒を行い、感染症予防に努めた。
- ・門扉の取りかえ、フェンスを設置し防犯対策に努めた。
- ・安全対策委員を設置、避難訓練や不審者侵入を想定した訓練を行い、危機管理意識を持つように努めた。
- ・ヒヤリハットを細かくとらえ記入することができたが、生活の場を整備し、子どもの動きを想定することで安全保育に繋げていきたい。

②子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・子どもの気持ちに共感することで子ども達が安心して生活ができるよう環境を整備した。今後も乳幼児期の成長発達を理解し、自己肯定感が育つようにしていきたい。
- ・基本的生活習慣の確立では、個人差を踏まえその子に合ったペースで成長できるよう丁寧な保育に心がけた。今後も焦らず一人一人を大切に関わっていききたい。
- ・戸外遊びを通して体力づくり（鬼ごっこ、集団遊び、鉄棒等）に取り組んできた。

- ・自然農園やキラキラ公園まで散歩に行き自然に触れたり、散歩を通して交通ルールを身に付けたりできるよう取り組んでいる。今後も心身ともに健やかに成長できるよう保育していきたい。

③専門機関、教育機関、他施設との連携

- ・年2回、十全総合病院小児科（瀧上 Dr）、藤田歯科クリニック（藤田 Dr）による検診を受けた。その結果を保護者に伝え、早期治療に繋げている。
- ・住友病院眼科スタッフによる年中児の眼科検査、発達支援課による年長児の発音検査を行い、早期発見早期治療に繋げている。
- ・発達支援課による巡回相談、就学前相談を受け、サポートファイル等を作成することで支援を必要とする子どもが無理なく集団で生活ができクラスの一員として協調できるように保育している。また、保健センター、子育て支援課、東予子ども女性支援センターと連携を取りながら母親支援を行っている。個別ケース検討会では、支援の仕方を具体的に話し合うことができた。今後も各機関と連携を取りながら子どもの発達や母親支援をしていきたい。
- ・視聴覚センター、鷹ノ子病院の医師との連携をとり、聴覚障害についての理解を深めながら支援を行っている。また、研修などにも参加した。
- ・中萩小学校での幼保小連絡協議会への参加。授業参観、話し合いによる情報交換を行った。就学に向けての引き継ぎ、支援を必要とする子のサポートファイル作成など小学校との連携を取っている。運動会、お祭り集会などにも参加した。子ども達が小学校生活に期待を持って就学できるよう今後も交流していきたい。
- ＊各機関との連携は今後も大切にしていきたい。
- ・老人施設むつみの家と連携を取り災害時の協力体制を話し合ったり、夕涼み会、クリスマス会等の行事に招待したり、慰問に行ったり交流を深めている。

④危機管理対策

- ・毎月、各災害を想定しながら避難訓練を実施。問題点、反省点を職員間で話し合い、子ども達が安全に避難できるよう取り組んでいる。29年度は、避難車を購入した。また、保護者が防災マニュアルを閲覧できるよう廊下本棚に配置している。掲示板に避難経路を掲示し保護者にも知らせている。
- ・セコムに依頼し防犯対策に努めている。
- ＊今後も職員間で危機管理について話し合い、確認することで防災、防犯意識を高めていきたい。

(2)「確実な知識と技術」の修得

①職員の資質向上

- ・保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修、三恵会主催の研修などに参加し資質向上に努めた。

- ・自己評価をすることで自分自身の反省評価を行い、子どもの活動内容や結果だけでなく、子どもの育ちや意欲に繋がる保育を目指してきた。まだまだ経験が浅いので戸惑うこともあるが、職員間での話し合い、共通理解をすることで保育の質の向上に繋げていきたい。
- *日々いろいろなことに直面しながらも、職員一人一人は前向きに取り組み一生懸命頑張っている。
- *今後も研修、経験を重ねながら専門性を身につけ、また、社会人としても成長していって欲しい。

②専門性の充実

- ・保育園で働く全ての人が子どもに対しての人的環境である。言葉遣い、身だしなみ、行動等、子どもの成長に与える影響は大きい。職員一人一人が丁寧に子ども達に関わり保育するよう心がけた。
- ・保育課程に基づいて各クラス年指導計画、月指導計画、週（日）指導計画、個人別月指導計画、個人別週（日）指導計画、各行事の指導計画を立て、ねらいをもって保育に取り組んだ。
- ・看護師による健康観察、感染症予防についての情報提供などを行った。
- ・栄養士による食育活動（野菜の菜園、収穫、クッキング、試食会など）
アレルギー児の除去食、肥満傾向にある子どもの食について保護者と懇談を行いながら食事の提供と食生活に関する指導、相談を行った。
- *毎月、園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりを配布した。

(3)「堅実な経営」の実践

- ・保育室、園庭遊具等の安全チェックを行い、危険箇所は随時修繕を行った。
29年度は、補助金により門扉、フェンスの設置を行った。
- ・日々、忙しく業務に追われている中でも、子どもの成長、保護者からの声かけを通し、保育の仕事に対してのやりがいを感じられるよう、今後も働きやすい環境づくりをしていきたい。
- ・職員間で話し合い、無駄をなくすよう取り組んできた。

3、研修実績

(1) 施設内

職員会、クラスの状況報告、給食検討会、けがの報告、安全対策委員会、先任者会、主任会

(2) 施設外

保育協議会主催の研修、日本保育協会主催の研修、
保育協議会部会（園長、主任、幼児、乳児、障がい児、給食）

日本保育部会（園長、主任、給食）、就学前人権同和教育
三恵会本部主催の研修

4、行事实績（年間）

- 4月 入園式、家庭訪問、園児健康診断、園児歯科検診、年長児発音検査
 - 5月 野菜の収穫、遠足、保育参観（試食会）、年中児眼科検診、
看護の日（ユリノキ病院より花プレゼント）
 - 6月 わくわくお楽しみ会、プール開き
 - 7月 プラネタリウム見学、七夕集会
 - 8月 プール大会（バイキング給食）
 - 9月 敬老の日ハガキ投函
 - 10月 運動会、お祭り集会、中萩小学校のお祭り集会に参加、交通安全教室、
生き生きフェスティバル作品出展、園児歯科検診
 - 11月 親子遠足、シルエット劇場観覧、プーク人形劇観覧、職場訪問、園児健康診断、
中萩文化祭作品出展、やすらぎの郷文化祭作品出展・鼓隊演奏出演、
火遊び防止教室
 - 12月 保育参観、おもちゃつき、クリスマス会、むつみの家クリスマス会参加、
新入園児申請書受付、在園児家庭現況届提出
 - 1月 もうすぐ1年生撮影
 - 2月 節分、たのしいおあつまり（発表会）、祖父母招待、記念撮影
 - 3月 ひな祭り集会、人形劇ふきのとう観覧、交通安全教室、お別れ遠足、お別れ会、
卒園式
- ＊毎月実施…誕生会、異年齢児交流、食育活動、避難訓練、身体測定など

5、地域交流、ボランティア、実習生

（1）地域交流状況

人形劇ふきのとう来園、夕涼み会、運動会、発表会などに地域の方を招待した。

（2）実習生受け入れ

松山東雲短期大学（3名）
今治明德短期大学（1名）
大阪芸術大学短期大学大学部（1名）
大阪医療秘書福祉専門学校（1名）

（3）体験学習の受け入れ

中萩中学生（104名）

養護老人ホーム
新居浜市立慈光園

平成29年度 事業報告

1. 運営方針

利用者の心身の低下による支援の増加、精神疾患を持った方や生活困窮者の入所が多くなるなど自立生活困難者の増加に伴い利用者の個人差が大きくなり、一人ひとりの健康状況の把握に努め利用者の有する能力に応じた処遇計画を作成し、介護保険サービスの利用や地域交流、園内行事を通じて健康維持や日常生活での自主性をそなわず安心して生活が送れるよう支援に努めてまいりました。

また、医療機関や介護福祉施設と連携を図り、生きがいを持って日常生活が送れるよう自立支援に必要で有効なデイケアやデイサービスの利用を進め、利用者の生活力を高め社会参加の助長を継続して行う事を指定管理者として支援してまいりました。

2. 重点課題と具体的取り組み実績

(1) 利用者本位の支援の充実（誠実な福祉）

- ①利用者一人ひとりの特性の把握に努め、その状態に合った処遇計画を作成し、掃除、洗濯、着替えなど日常生活を可能な限り自分で行えるように努めました。
- ②利用者朝礼において唄、軽体操を通して健康維持を図りました。
- ③生きがいを持って過ごしていただけるよう、クラブ活動（童謡・絵手紙等）、ミニデイ（カレンダー作り・行事用作品作り）、レクレーションの実施、訪問・出前講座の開催や、他の団体が主催するイベント等への出展、創作活動などを積極的に推進し、生活意識の向上に努めました。
- ④庭木の手入れ、水やり、草引き等の共同作業や中庭での有志者による花作り作業を通して自立した生活を促すよう努めました。
- ⑤嗜好調査により希望を考慮し、季節感や彩に配慮したおいしい食事の提供に努め、また、衛生管理と食品管理を適正に行いました。

(2) 地域社会に貢献できる施設づくり（誠実な福祉）

- ①夏祭りを開催し地域住民の方々の参加をいただき交流を進めてまいりました。
- ②金栄校区や公民館が主催する文化祭、運動会など地域活動に積極的な参加を促すとともに、園で実施する出前講座に地域の方が参加できるよう公民館へ案内し参加を呼び掛けました。
- ③園近隣において清掃活動をほぼ毎月実施するとともに、金栄小学校の1年生を対象とした下校時の見守りボランティア活動を実施しました。

(3) 地域の社会福祉資源の有効活用（確実な知識と技術）

- ①当園での生活が高齢化等により困難となった利用者に対し嘱託医、協力医療機関や居宅介護支援事業所等と連携し、その人に適した施設へ処遇替えを努めました。
- ②処遇計画に基づき、デイサービスなどの介護サービスの利用により、心身の健全化に努めました。

(4) 人材育成の推進（確実な知識と技術）

- ①他施設の協力を得て介護技術実務の向上や老人福祉施設協議会等が開催する各種研修会に参加し知識と技術の向上と各種資格の取得を図ってまいりました。
- ②事故防止感染症対策委員会等に置いて個別問題の解決を図ることにより職員の資質の向上に努めました。

(5) 効率的な施設運営（堅実な経営）

- ①物品の適正な在庫管理に努めるとともに購入にあたっては見積りを取るなどの経費削減に努めました。
- ②デマンド量の監視により電気使用状況を把握し抑制に努めるとともに、利用者に節電を呼び掛け、電気料金の減少に努めました。
- ③ストレスチェックを実施し、職員のメンタルヘルスカをを行いました。

3. 研 修

(1) 施設内研修

①職員全体会での研修

介護技術の向上、個人情報保護、感染症事故防止対策、各種研修報告会等

②出前講座

交通安全教室、私達ができる医療費の節約、糖尿病と運動、AED講習、家庭でらくらく骨盤整体術

(2) 施設外研修

①他施設での介護技術等の実務研修

②老人福祉施設協議会（愛媛県・東予地区・新居浜市）の研修会

③愛媛労働基準協会主催の研修会

④十全ユリノキ病院主催の研修会

⑤三恵会法人本部主催の研修会

4. 行事報告

4月 お花見歩行会

5月 春のショッピング

6月 芍薬見学

7月 菖蒲見学・慈光園夏祭り・避難訓練

- 8月 校区盆踊り大会参加
- 9月 敬老会
- 10月 秋のショッピング・運動会・避難訓練
- 11月 紅葉ドライブ・生き生きフェスティバル・校区文化祭参加
- 12月 クリスマスコンサート
- 1月 初詣・冬の七夕コンテスト
- 2月 節分
- 3月 お楽しみ会

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

慈光園夏祭り・生き生きフェスティバル・金栄校区盆踊り・文化祭
春秋太鼓台訪問・金栄小学校ツリー点灯式・地域清掃・金栄見守り隊

(2) ボランティア受入

絵手紙クラブ・お話会クラブ・唄クラブ・童謡クラブ・さくら乳児園
十全保育園・子供太鼓台・新居浜西中学校・一宮グループ